

科目名称：	経済学概論（ビジネス実務学科）	
担当者名：	小原 慎平	
区分	授業形態	単位数
基礎教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
本講義の目的は、経済学の基本的な知識の習得です。「経済活動」という言葉で呼ばれるように、企業によるビジネスや、消費者による消費活動は、市場や経済から独立しては存続できません。本講義では、この市場や経済、そこに参加する主体の行動原理などについて、その視点や考え方を理解するための諸概念を扱います。		
授業の達成目標・到達目標		
①経済に関する基礎的な用語や概念を理解できる ②主な経済指標の読み方、経済動向の見方、経済政策の考え方などを理解できる ③上記①と②をもとに経済関連の時事や諸問題について議論や意見交換ができる		

基礎教育科目		ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し他者との信頼関係を築いていくことができる。		○
DP(2)	様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。		
DP(3)	専門的な知識や技能を修得し、それぞれの分野において、これらを柔軟に活用していくことができる。		

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 （レポート含む）	その他	合計
全学DP(1)	60		30	10	100
全学DP(2)					0
全学DP(3)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容１》	《経験年数１》
	《内容２》	《経験年数２》
	《内容３》	《経験年数３》
	《内容４》	《経験年数４》
備考		
演習課題等でGoogle Classroom を利用します。学生用メールアドレスを利用可能な状態にしておきましょう。		

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
基本的な経済用語や概念の理解	講義で扱った基本的な経済用語や概念を自分で説明できる	講義で扱った基本的な経済用語や概念について、補助があれば説明できる	講義で扱った基本的な経済用語や概念を理解している	講義で扱った基本的な経済用語や概念について、補助があっても理解できない
経済学的な視点の理解	講義で扱った基本的な経済指標の算出原理を説明できる	講義で扱った基本的な経済指標の算出原理を概ね説明できる	講義で扱った基本的な経済指標について、その内容を理解できる	講義で扱った基本的な経済指標について、その内容を理解できない

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間（分）
第1回 ガイダンス、経済学と「合理的な人々」（効用、機会費用、希少性など）	効用、機会費用についてまとめる	40分
第2回 ミクロ経済学の基本：「平均」と「限界」（限界効用、損益分岐点など）	限界消費性向、損益分岐点についてまとめる	40分
第3回 市場の参加者：家計と企業と政府	経済主体それぞれの行動と目的をまとめる	40分
第4回 企業の形態と目的（株式、持分、会社形態など）	株式の特徴と株式会社についてまとめる	40分
第5回 市場取引と価格：需要と供給と社会的余剰（受給曲線、課税と死荷重など）	均衡価格の計算方法を、繰り返して理解する	40分
第6回 市場の失敗（ディスカッション含む）（市場外部性、公共財など）	ディスカッションの内容を整理してまとめる	40分
第7回 経済活動の指標（GDP、物価指数、成長率など）	GDPや成長率の名目値から実質値を計算する	40分
第8回 ケインズとマクロ経済学（有効需要、ニューディール政策など）	世界恐慌と公共事業の事例をまとめる	40分
第9回 租税と財政政策（課税原則、社会保障など）	日本にどのような税金があるかを整理する	40分
第10回 貨幣と金融（流動性、金融の分類と特徴など）	金融の方法と特徴を整理する	40分
第11回 貨幣の価値と景気（インフレ、デフレなど）	インフレ、デフレとその影響を整理する	40分
第12回 日本の経済：戦後から現在まで（時代背景と主な出来事）	主な時期区分と主要な出来事を整理する	40分
第13回 日本式経営と労働問題（雇用形態の変化に伴う労働問題の変化）	現代の主な労働問題について整理する	40分
第14回 貿易と外国為替（ディスカッション）（円高、円安と輸出入への影響など）	為替変動とその影響について整理する	40分
第15回 国際経済と日本（経済統合の動向や、GAFAなどについて）	各地の経済統合と日本の参加状況を整理する	40分
事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。 また事前事後学修としては、各回の演習課題を解き、配布資料をまとめることになる		
成績評価の方法・基準		
定期試験は、60%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。 各講義後に演習課題を出す。その演習課題全体で30%の評価配分とする。 残りは10%はディスカッションなど講義中の活動を評価対象とする。		
課題に対してのフィードバック		
演習課題については、Google Classroom のテスト付き課題機能を利用し、解答後に採点結果と正答、解説を表示する。		
教科書・参考書		
教科書：井堀利宏（2018）『大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる』，KADOKAWA 教科書内の図表を中心に、記述等も解説に利用する。		